

2. 広場の理解の仕方（類型化）

2. 広場の理解の仕方（類型化）

前章では、広場事例の特徴整理のために各事例のタイプ分けを行った。本章では、広場整備の検討を行う際に、対象となる敷地・エリアの特性を理解するのに役立つような、より汎用性が高く、かつ使い勝手の良い類型化手法の検討を行った。

2-1. 広場等空間の類型化

(1) 類型化の考え方・視点

- 広場には様々な立地条件的、機能的、空間的なタイプがあり、それぞれのタイプごとにより良い広場とするために留意すべきポイントが異なる。
- そこで、本検討においては、立地や周囲との関係から、誰もが容易に判断できる分類を行い、それぞれの分類の前提条件や目指すべき方向性を整理した。
- 類型化の視点は、以下の4つとする。

[類型化の視点]

① 位置

- 地域の中心商店街や交通結節点周辺など歩行者中心エリア内か、あるいは、そこから離れた場所なのか？

② 接続状況

- 動敷地内で複数動線が交差し焦点となる状況か、あるいは動線が一本のみ通り抜ける（あるいは1面で接する）状況か？

③ 敷地境界部の囲み度

- 広場の敷地境界部の2面以上（あるいは周長の50%以上）が建物に面しているか、あるいは半分以上がオープンな状況か？

④ 周辺建物のアクティブ度

- 周辺建物に店舗等のアクティブな機能があるか、あるいは少ないか？

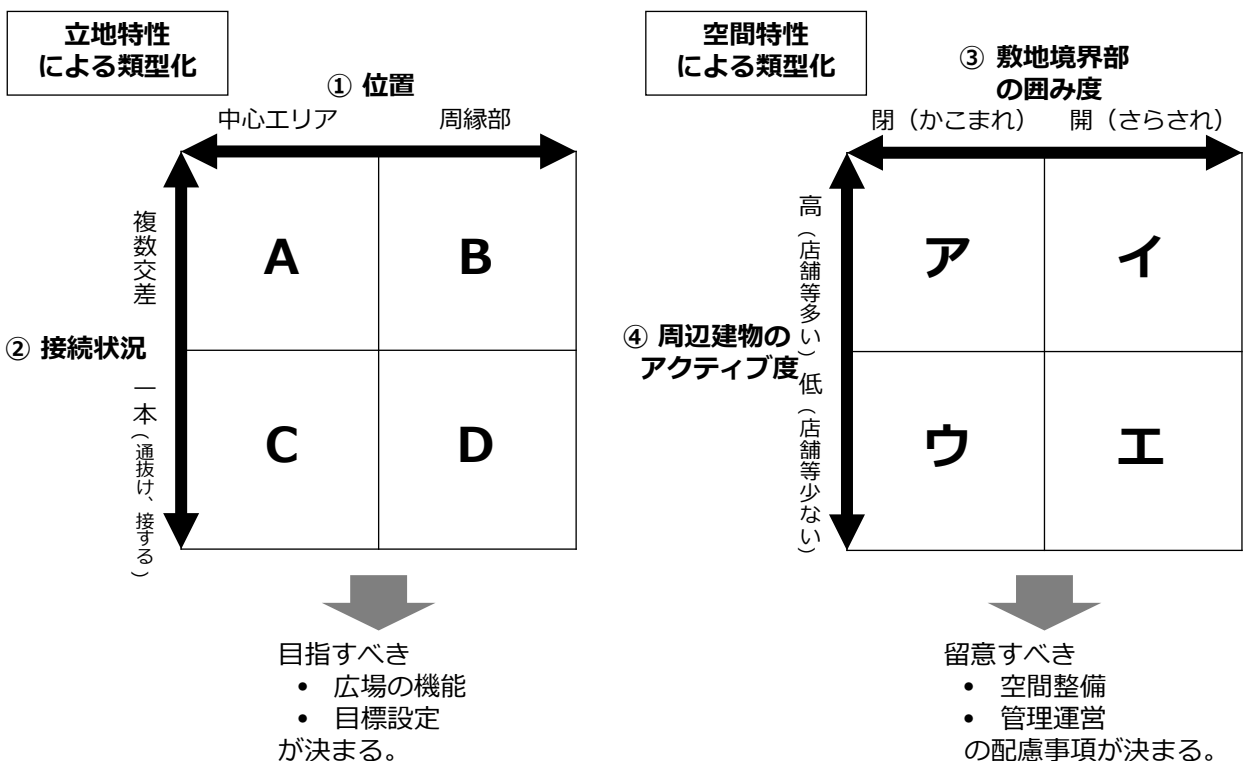
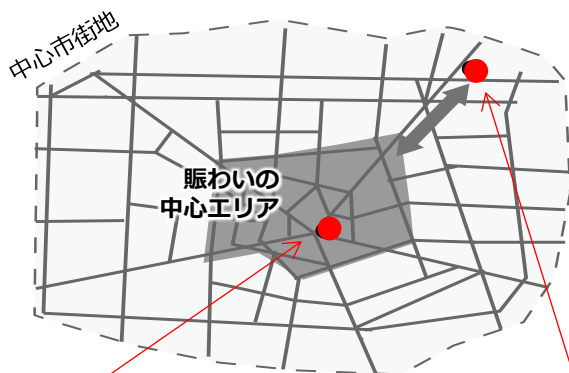


図 2-1-1 立地特性・空間特性による類型化

(2) 類型「立地特性」の説明

「立地特性：①位置」



中心エリア（インナー）

多くの歩行者が回遊し、街の中心として認識される賑わいの中心エリア。

例えば、大規模ターミナル的な駅の前、商店街の中心、街の中心的な商業施設の前など。

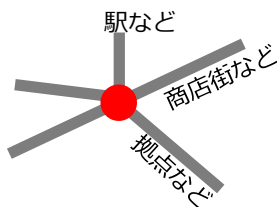
周縁部（アウター）

中心エリアから離れているものの、その有効活用が望まれる公共空間。

例えば、小さな駅の前、商店街の端、駅から少し離れた公共施設の前など、回遊性を広げたいと思えるような場所。

図 2-1-2 立地特性：①位置による類型化の説明

「立地特性：②接続状況」



複数交差（クロス）

周辺の交通結節点や拠点施設、商店街などと接続し、複数の流れが交差する立地。エリアの歩行者動線の焦点や結節点。

例えば、複数の街路が交差する地点、複数の方向から人が集まる駅前など。



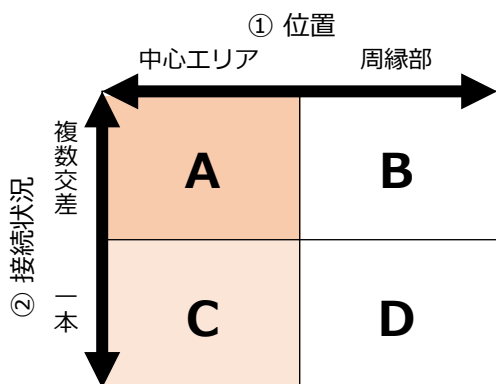
一本（シングル）

商店街など単一の人の流れと関係する立地。敷地に1方向の動線のみが接続する状況。

例えば、街なかの細街路の途中や、その他、商店街の中間地点、大きい施設の中など。

図 2-1-3 立地特性：②接続状況による類型化の説明

各類型の性質と考えられる方向性の例



A：様々な人が集まりやすく、滞留空間と移動空間が混在しやすい。

→より多くの歩行者を受け入れ、豊かな歩行体験ができる広場。または、多くの人がゆっくりと滞在したくなる広場などの方向性が考えられる。

B：地域の人が集まりやすく、滞留空間と移動空間が混在しやすい。

→魅力を高めることによって街の新たな中心的な場所としての広場。または、地域の子供や大人が集まって談笑できる広場などの方向性が考えられる。

C：広場内の通り抜けが少なく、滞留空間と移動空間が分離しやすい。

→街なかで歩き疲れた時に、街の様子を眺めながらちょっとした休憩ができる広場。または、街なかでも静かにゆっくり休憩できる広場などの方向性が考えられる。

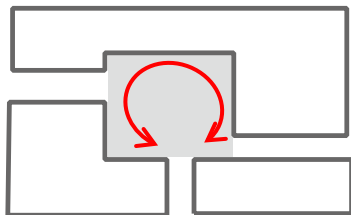
D：広場周辺の人通りが少なく、人の少ない静かな空間になりやすい。

→散歩の途中に景色を眺めながらちょっとした休憩ができる広場。または、近所の子供や高齢者がゆっくりと1日中、趣味の活動を行える広場などの方向性が考えられる。

図 2-1-4 立地特性による類型化

(3) 類型「空間特性」の説明

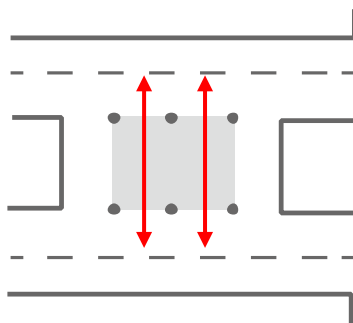
「空間特性：③敷地境界部の囲み度」



閉（かこまれ）

広場境界部が主に建物等に面しており、強い領域性を感じられる状況。

例えば、商店街にある広場、施設内の中庭的区間にある広場など。



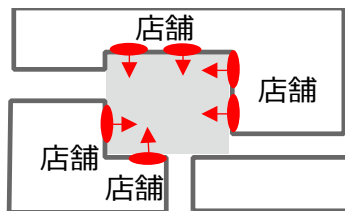
開（さらされ）

広場境界部の大半が道路や空地などとなっており、オープンな状況。

例えば、駅前の道路に囲まれた広場、交差点の脇にある道路に囲まれた広場など。

図 2-1-5 空間特性：③敷地境界部の囲み度による類型化の説明

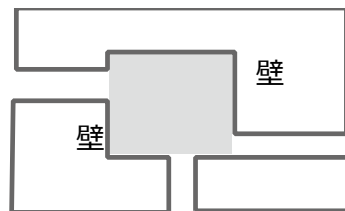
「空間特性：④周辺建物のアクティブ度」



店舗多い（アクティブ）

広場沿って店舗が立地しており、活動の雰囲気かじみ出ている状況。

例えば、商店街の店舗に面した広場、商業施設内の店舗に面した広場など。



店舗少ない（ブランク）

広場沿いに店舗等はほとんどなく、壁が大部分を占めている状況。

例えば、店舗を持たない公共施設の脇にある広場、業務ビルに囲まれた広場など。

図 2-1-6 空間特性：④周辺建物のアクティブ度による類型化の説明

各類型の性質と考えられる方向性

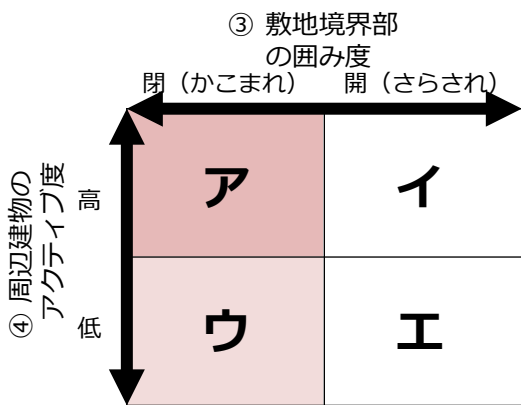


図 2-1-7 空間特性による類型化の説明

ア：領域性が高く、周辺店舗の利用客が留まりやすい。

→領域性の高さを生かした居心地の良い空間整備を、周辺店舗と一体的な空間となるよう行うことなどが考えられる。

イ：広場周辺の視認性が高く、周辺店舗へ利用客が集まりやすい。

→視界の広がりを生かした開放感のある空間整備を、周辺店舗と一体的な空間となるよう行うことなどが考えられる。

ウ：領域性が高く、ゆっくりできる静かな空間になりやすい。

→領域性の高さを活かして、長時間行うアクティビティが生まれやすい空間整備を行うことなどが考えられる。

エ：広場周辺の視認性が高く、開放的な空間になりやすい。

→開放感のある空間特性を活かして、様々なアクティビティが生まれやすい空間整備を行うことなどが考えられる。

(4) 各類型の例

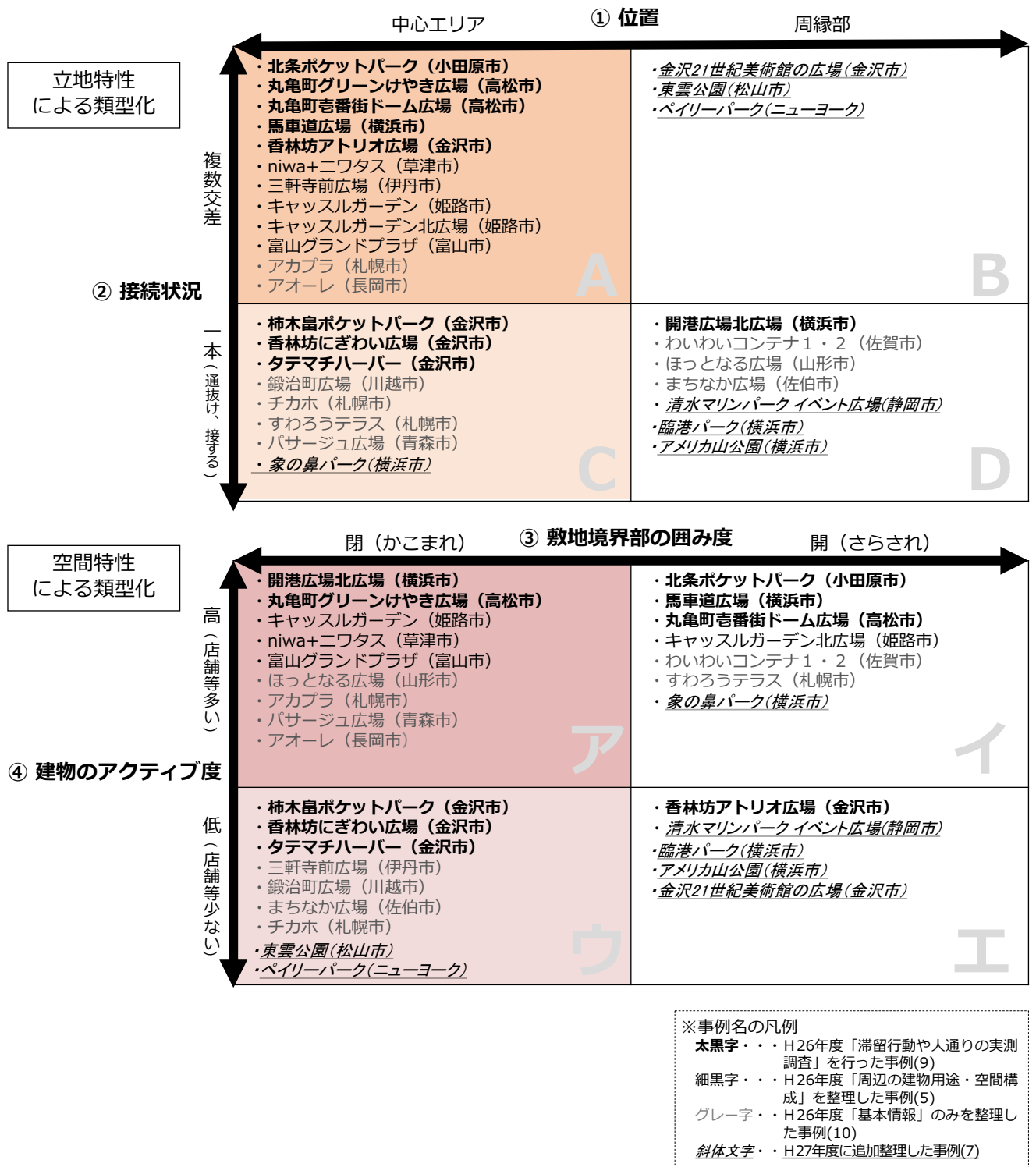


図 2-1-8 各類型の例

(5) 各類型の特徴

表 2-1-1 各類型の特徴

立地特性	空間特性	広場の具体例	場所の使われ方のイメージ (例示)
A (中心エリア・ 複数交差)	ア (かこまれ/店舗多)	<ul style="list-style-type: none"> ・丸亀町グリーンけやき広場 (高松市) ・キャッスルガーデン (姫路市) ・富山グランドプラザ (富山市) ・niwa+ニワタス (草津市) ・アカブラ (札幌市) ・アオーレ (長岡市) 	・買い物中の休憩スペースとして使われる広場
	イ (さらされ/店舗多)	<ul style="list-style-type: none"> ・北条ポケットパーク (小田原市) ・丸亀町壱番街ドーム広場 (高松市) ・馬車道広場 (横浜市) ・キャッスルガーデン北広場 (姫路市) 	・ウィンドウショッピングなどを楽しめる広場
	ウ (かこまれ/店舗少)	<ul style="list-style-type: none"> ・三軒寺前広場 (伊丹市) 	・公共施設と一体的に使われる広場
	エ (さらされ/店舗少)	<ul style="list-style-type: none"> ・香林坊アトリオ広場 (金沢市) 	・イベントで使われる公開空地
B (周縁部・ 複数交差)	ア	—	・店舗の前庭的な広場
	イ	—	・店舗へのアクセス空間
	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・東雲公園(松山市) ・ペイリーパーク(ニューヨーク) 	・読書などして、静かに過ごせる広場
	エ	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢21世紀美術館の広場(金沢市) 	・通り抜けの途中で立ち話などする広場
C (中心エリア・ 一本)	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・パサージュ広場 (青森市) 	・商店街で買ったものを飲食できる広場
	イ	<ul style="list-style-type: none"> ・すわろうテラス (札幌市) ・象の鼻パーク(横浜市) 	・歩き疲れた時に歩行者を眺めながらちょっと休憩できる広場
	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・柿木畠ポケットパーク (金沢市) ・香林坊にぎわい広場 (金沢市) ・タデマチハーバー (金沢市) ・鍛冶町広場 (川越市) ・チカホ (札幌市) 	・フードワゴンなどの移動販売が集まる広場
	エ	—	・ちょっとした立ち止まりや立ち話をする広場
D (周縁部・ 一本)	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・開港広場北広場 (横浜市) ・ほっとなる広場 (山形市) 	・店舗の前庭的な広場
	イ	<ul style="list-style-type: none"> ・わいわいコンテナ1・2 (佐賀市) 	・近隣の人が集まる広場
	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか広場 (佐伯市) 	・近隣の子供が集まって遊べる広場
	エ	<ul style="list-style-type: none"> ・清水マリンパーク イベント広場(静岡市) ・臨港パーク(横浜市) ・アメリカ山公園(横浜市) 	・景色の良いイベント広場

(6) 代表的な類型の考え方

A・ア タイプ (中心エリア/複数交差)・(かこまれ/店舗多)

立地・空間の特性

市街地の中心の重要な交差点であり、多くの歩行者が通り抜ける場所となっている。建物に囲まれた領域性があり、広場に面して店舗も多く立地している。

関係する視点

- 移動途中の滞留が便利に快適にでき、買物の拠点的な空間となっているか？
- 来街者、市民、周辺店舗のスタッフなどの相互作用が見られるかどうか？

空間づくりの方向性(例)

- 短時間利用と長時間利用を含む多様な行動に対応できる場所をつくる。
- 店舗と広場の関係を高める工夫をする。



A・イ タイプ (中心エリア/複数交差)・(さらされ/店舗多)

立地・空間の特性

市街地の中心の重要な交差点であり、多くの歩行者が通り抜ける場所となっている。周囲には多くの店舗があるものの、広場の周囲を道路が取囲んでおり領域性が弱い。

関係する視点

- 買物などの途中で短時間の滞留が便利に、快適にできるか？
- 来街者、市民、周辺店舗のスタッフなどの相互作用が見られるかどうか？

空間づくりの方向性(例)

- さらさしていることを活かした、柔軟な可変性・可能性を確保する。
- シンプルで便利な主動線を確保しつつ、短時間滞留を促す。
- 周辺店舗と広場との関係をつくる。



C・ウタイプ (中心エリア/一本) ・ (かこまれ/店舗少)

立地・空間の特性

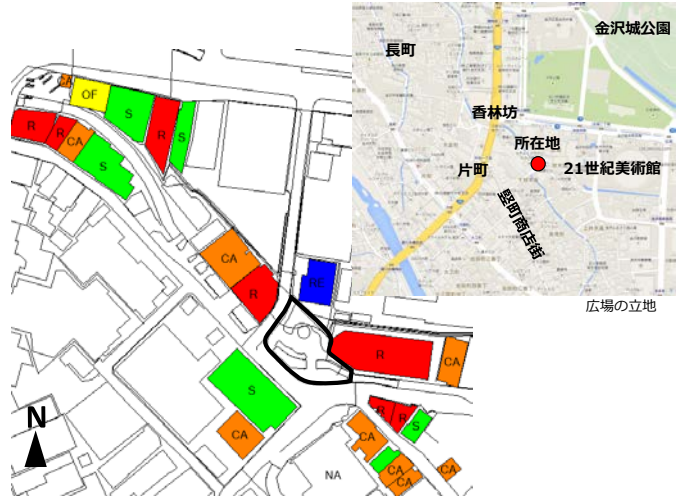
市街地の中心の通りにあり、多くの歩行者が通り抜ける場所となっている。周囲は高木の植栽によって囲まれており領域性が強いが、店舗は少ない。

関係する視点

- 領域性の高さを生かして長時間の滞在が便利に、快適にできるか？
- 飲食、会話、読書、遊びなど、多様なアクティビティが見られるかどうか？

空間づくりの方向性 (例)

- 多様なアクティビティを受け入れられる滞留設備を確保する。
- キッチンカーなど可動式の店舗を誘致して、空間の魅力を高める。



広場周辺の建物用途

- R 物販店舗
- CA 飲食店舗
- S サービス店舗
- OF オフィス
- RE 住宅
- P 駐車場
- VA 空家など



D・アタイプ (周縁部/一本) ・ (かこまれ/店舗多)

立地・空間の特性

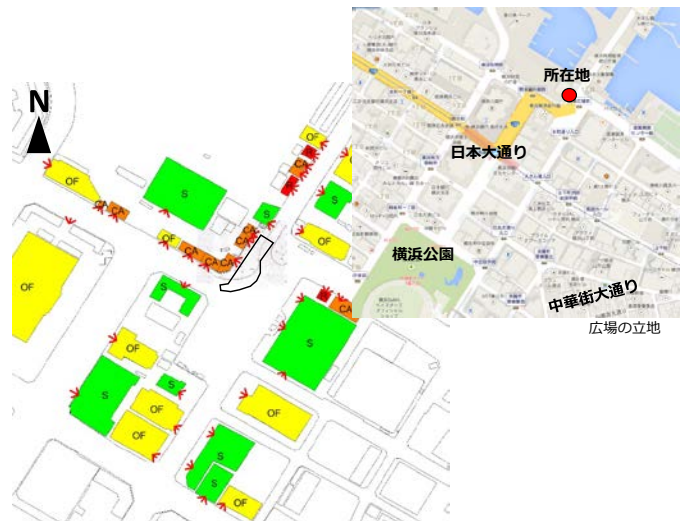
臨海部近くで周辺にはオフィスが多い、観光エリアでもある。多くの歩行者が通り抜ける場所となっている。周囲には多くの飲食店舗があり、領域性も強い。

関係する視点

- 主動線と滞留空間が干渉しやすいため、お互いの妨げとならないように工夫がされているか？
- 来街者、市民、周辺店舗のスタッフなどの相互作用が見られるかどうか？

空間づくりの方向性 (例)

- 空間の中に、干渉をやわらげ拠り所となる背面を設ける。
- 居心地の良い滞留空間にするため、歩行者を眺められるように滞留空間を配置する。
- 店舗と広場の関係を高める工夫をする。



- R 物販店舗
- CA 飲食店舗
- S サービス店舗
- OF オフィス
- RE 住宅
- P 駐車場
- VA 空家など

